

(3) 防災講演会

児童・生徒に地震・津波などの災害に関する正しい知識を身に付けるため、防災教育アドバイザーによる防災講演会を拠点校2校でそれぞれ実施した。

【一色南部小学校】

(ア) 実施日時

7月5日(木) 10:50～12:30

(イ) 参加者

5年生 児童37名 中核教員4名

(ウ) 講師・演題

防災教育アドバイザー 近藤ひろ子 氏

「みんなで『防災』をやっていこう！」

(エ) 活動内容

地震や津波が発生する仕組みなどを、映像を使って分かりやすく説明していただいた。そして、「命を守ること」「みんなと一緒に生き延びていくこと」が最も大事なことであり、そのために何をすべきかを過去の災害をもとにして切実に話していただいた。

また、講演の中で、「地震・津波 防災ソング ♪『い・つ・も』『お・か・に』」を、手話を交えて教えていただき、児童たちは休憩中でも近藤氏と一緒に体を動かしながら歌っていた。児童たちにとっては、楽しみながら防災について考えるきっかけとなった。

近藤氏の講演の後には、危機管理課職員から「南海トラフ地震における西尾市の被害想定」などについて、児童たちに具体的に説明した。



講話を聞く中核教員



防災ソングを歌う児童

【児童の振り返り】

- ・南海トラフ地震は揺れる時間がとても長いと知り、改めて怖くなりましたが、家族に防災のことを話したくなりました。
- ・私の家には非常用持ち出し品が準備できていないので、家族みんなで話し合って準備していきたいと思います。
- ・もし地震が起きたら、近所の方にも声をかけながら、自分から逃げられるようにしたいです。そして、大切にしたいのが「命」、「支え合い」、「自ら動くこと」だと知りました。今日の講演を聞いて、もっと防災のことを知りたくなりました。

【中核教員の振り返り】

- ・近藤先生の話の中に、「だんごむしスタイル」という言葉があった。「シェイクアウト」という言葉は、低学年には分かりにくい言葉であったが、「だんごむし」の姿勢をとろうということ、低学年でもきちんと頭をかかえこむ姿勢をとることができる。無告知避難訓練を行ったときも、どの学年もシェイクアウトの姿勢をとることができ、「だんごむしスタイル」が定着している様子だった。

【一色中学校】

(ア) 実施日時

7月10日(火) 13:15～14:55

(イ) 参加者

1年生 生徒194名 1年担当教員(中核教員2名含)

(ウ) 講師・演題

防災教育アドバイザー 近藤ひろ子 氏

「一人一人が『防災実践者』 ～中学生だからこそできること～」

(エ) 活動内容

一色南部小学校で実施した防災講話と同様の内容もあったが、とりわけ中学生は防災リーダーとして活躍できるということを、具体的な事例をもとに話していただいた。

また、講演の中で「防災をやってみるヒント」をいくつか提示していただき、そのヒントをもとに、生徒たちはそれぞれ課題をもち、防災学習をスタートさせることとなった。



熱心に講演を聞く生徒たち



お礼の言葉を伝える生徒

【生徒の振り返り】

- 家に帰ったら、一色地区のハザードマップをじっくり見たり、避難所などを家族と確認したりしておきたいです。
- 災害が起こる前は、自分から防災に取り組んだり、防災のことを周りに伝えたりすることが大切であると知り、今の自分たちにもできることがあると思いました。
- 防災について中学生にできることはないと思っていましたが、他校での取り組みなどを紹介してもらい、中学生でもいろいろなことができることを知りました。災害時にパニックにならないように、しっかりと防災について取り組んでいきたいです。
- 地震はすごく怖いです。でも、今日の話聞いて、地震を心配するよりも、地震が起きてしまった時のために、自分ができることを探して、「その時」に実践できるように、防災について取り組んでいきたいと思いました。
- 自分の命を守ることも大切ですが、他の人の命まで考えることのできる中学生になりたいです。そして、いざという時は、中学生として地域のカ・支えになりたいです。

【中核教員の振り返り】

- 講演では視覚的資料も多く、生徒たちは自然災害について興味をもって話を聞くことができていました。これから生徒たちが防災について学んでいく心構えがしっかりできました。